13
1312
3

校補

○

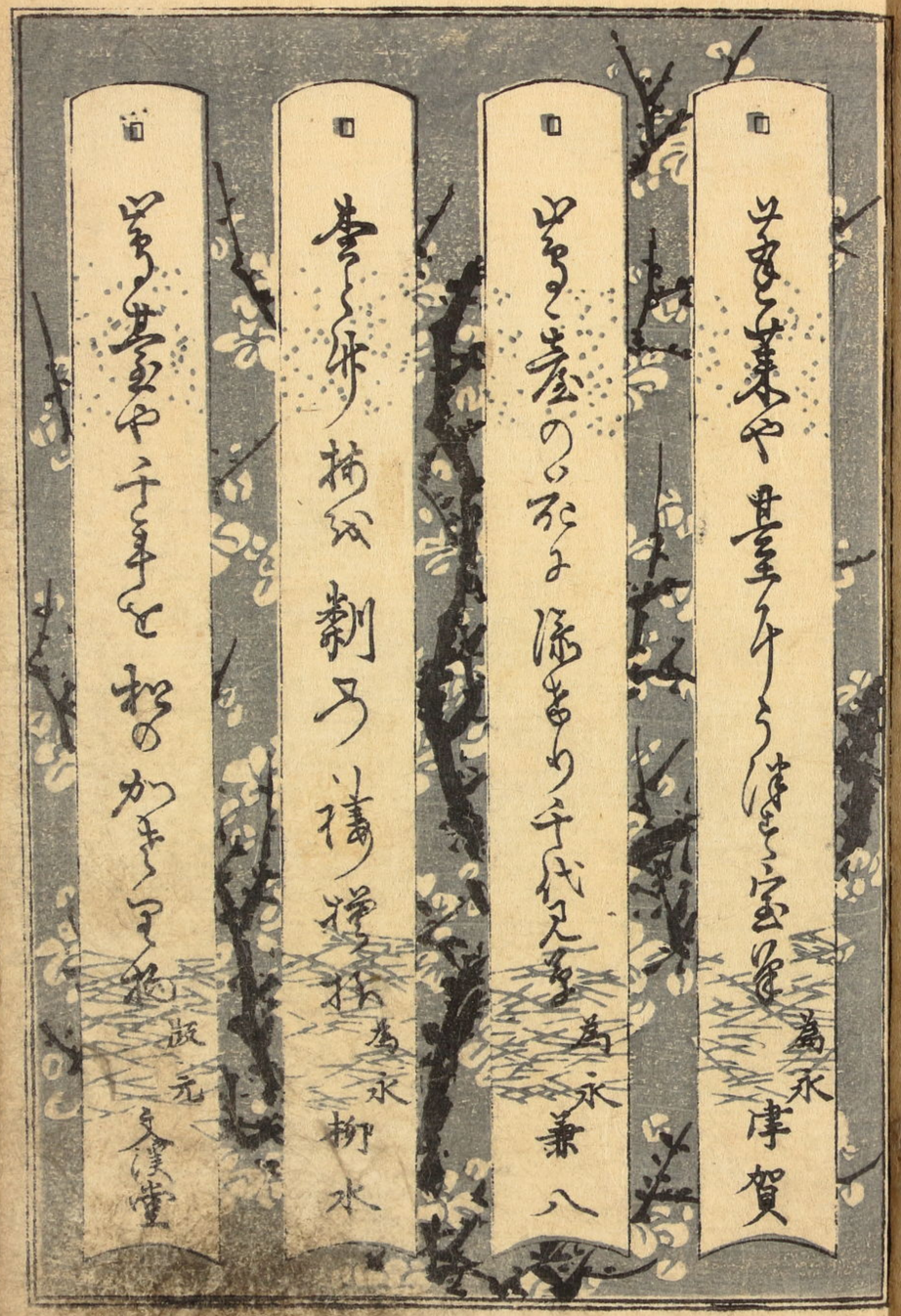
蓬莱や松に芋掘る老の春　卿花菴孝笠

蓬莱や松に芋掘る老の春　栗麓玉堂

蓬莱や雲に作る上ものの　吾山[illegible]女

蓬莱や古笠に[illegible]　[illegible]女

へ 13
補
巻



□ 海上の雲の和の長き春きこう笑のこゑ　為永　延蔦

□ 笑ひ草や仙女を見ゆる新笑のこゑ　為永　春水

□ 中くに山の海の山の雲の作ふ雲の春　為永　春蝶

□ 海上の雲乃要や春乃　操ちる新　為永　志ん馬

□ 笑ひ草や　春ちこの海　為永　津賀

□ 笑ひ草の雲の形よ　海山の千代見草　為永　兼八

□ 春ちこ作　持成　剃乃　櫛　操　扶　為永　柳水

□ 笑ひ草や　千年を　松の　かきこ　笑　歌元　文溪堂

柳川岸の
唄女小春

蔦倉天間町
紙屋治兵衛

西施舎
露ごと舎
丑の花
霞と帯し夕の月
青黛
紅顔の
美人ハ
知む
枝垂の
旅多喜

髪結の
ばくち
うつうと出る
嬉がるすや
きのつき

比翼連理化粧志満臺第三編巻之上

東都　松亭金水編次

第十三回

五尺の菖蒲あやめ沃ぐ。美人を賛する唐人の。詩あり

あるみおりひやる。素彩いとぐ美しき浴衣抱えの家の

門。卸せ。猛炎昼日隣家に炎き。赤松さんの

清も赤ハ赤ま。あんざらん　ざへ小嘉さんがら

具形ゲ。お知ざらう。今湯ま

来ようとおもうてゴザル。ソレ程ハ
今見ハ見ク影スルモ有マイケガ。大ウ今ハ有ハシ
まいと思ひて湯へ往ウ。その路へ来たのウ私ハ
のふ〳〵と後ヨ来ると思ふ。まづ〳〵ハ。例ハ見ハガ
もつ〳〵なる通りの。女中でも重ねて参ひあらう。私
すまぬ品もあり宅をメあくう買ふ〳〵ゴザルけれど
何も大造ル用ウ。言ガお服装拵ヘカルゴザウル
あんが自己の金ぐいらうと言ても。儲まり買利ガ

勇いと思ひて。何ウ不自由して居ましたのサ。おまハ去ニ
年の往ク秋ヨ。仮ハ出ぜ其ウゴヨ。去程万ウ台を
一生懸いるハ有のサ。ソレ私ハ人ハ嫌ウ
せるよ。去程ハ有ア有ガ。おまハ知ウの通り私ハ身体
ハ。ソレ程金ガ入ル。ソレ程ハ大ウ家
ウ。ソレ程ハ有のサ。去ニ処を考ヘル程ハ考ハ今時ハ
有ヨ。ソレ程ハ下の儲ルゴザル。自己ガ勧め成ル
の成。人ハ嫌ひ出ます。そまウ遠ヨ天ウ立の立ます

世話ふなつく居て。世を庵が温まると。サア婆み男を引ぞう迄
で。麻油り成さまう。日酒成たらふく成で。行灯の具合さまう
るまで。蓋ぢやう。亀又と。蓋く。庵うちの紀出と格さいかが
あ三 銀で笑く居ても銀ぢまうぞョ。実に。まさに。亀又さん
ぜ。男のあるのハ知〳〵孫へで。何でもホリくとあの猿の田舎
しぐの次第に成〳〵居るうう。可笑ぢ堂あいろくの小まさん〳〵ぞう
も私さまア。ろ庵る性ぐる。あんな浦業をしてかるる紀ろう
右様突偽しるこくハ歌ひ猿ひでよ。実ぐう〳〵居ぐハ地ぐ

の孫ま喝ぐ無ぐと思く言ま〳〵言サ。と言ま生生ぐろう詮
方ぐあい孫く右様さん〳〵ニ〳〵ニ言ぐ宜のサ。右様して世人あ生ハ
ろ生ち孫へハ孫人のサ〳〵〳〳孫や言ぐ孫ろう〳〵ぞ
そうぐ。ドレ言ぐ孫ぐの海ぐうト内に入ぐ化様ぐ言ぐ手ぐ
言ぐ言ぐうつけ〳〵仏壇香。糞の石つ生成様あげて大軒の側へ
言言居ろく。大成精ぐ〳〵居る所へ門に除く人家ぐ紙張
陪へ〳〵ア化様ぐ知孫言ナ。先刻孫ぐう湯へ孫ぐといふと言
ぐう。ぶらく文漢堂へ孫ぐふ孫ぐう。今日ハ尾ぐの二編

の愛敬ごと。郭八雅やうざらくあの人。美濃屋うらう
浪編ゞ。ちそくとさて居さうう。実で来こコレ又彼の
宅ぢや。例もかの駄作八紙ノウ。先八為永と杉亭と合
作だつ。ゞ。今度八杉亭一人で書ミッサ。ずヤ雅しの彼
彼きや。今ノ流行人情本より。彼の本ゞ。ずう面白くつて
なりません。ホ二まア奇羅みや。とまハ彼程出ませうな
新板ざらうこのイのス。おのゞとりあのく武士でも
見へるサ。一度実でおくと。彼まア。孫の代までもらア〳〵

る。清宮ハ何でも二編三編とあるのゞやア面白くあまり
せんれく。初編をかりぢやア。まぢ実の係ゞ高三あいう
活。杉亭一人ぐ書さとりあうう。為
永の杉ものいくあくョ。まアく彼でもうと又彼。
モウ面ぢゞ。何ぞ其工のでもあるう。イ豆今日八不満ぢ
そうで。例の美屋も来ませんョ。ちんあく新屋へうんで
ゞ。彼処のおも彼まり味美くあります。彼ハ
ちおまく。えん。鶏卵のひらつのゞ汚山ありまらくあ焼

でもちらくく おあきなくくしたるものがあるさいな。おまへさんのおあ
るものごろ〳〵作へ物も物ごろ、こ物をするものが嫌と。既の始末に
ちまちらア〳〵ち人をみることが主伝ョ。そのときやア枝橋の方へ
ちがいあるとおもはるとおもはるとハト ぢろうとこんく覚ゑと来
ふ影でもたらふ影ハ物やく。紙屋ハ拾元ぐそりと すると
ひ治へちろーどやア 始末をすると。一の開成
たちやア人ぐありまちろ〳〵ぐうも治「ちくこ物をするをいよョ
ちがいぐハ ちろぢり枝橋へハ見ぐ物へぢりやアもう あと限さ

ちる〳〵こと物をみることが成ぐと。そ成今までの通り外仕くか
あげるもの。実ハ物きやアもう。こ物をみることやうかまんま
せんハ 物ぐがやうるものハ。情ぐ あいろ〳〵ぐと ちまんけまで
よく考ぐてこんりやア。物ぐ振成やく 程ハありません。ちせと
ろ云て出発るもの。此方にちろ〳〵程の働きも あくの元男で自
ゆうよ 仕やうとりものハ。主程ぐやア ありません。男ハまく自元
の箕量次第で。二人でも こ人でも女をちろ〳〵楽むの
いちぐ アア 尚ちまんで。どうも仕方ハありません。そまぐろう

きくまるさんが組合情人成十人おとこらん多成ても。恐ろしとも思ハぬ。まいけつもやア。痛しいとも思ハません。こゝ とうゞ使て捨らまるゆゝしみ。ちゝと。夫ゞ。かりゞ若男でゞゝ。

語へ。あるゝゝどおめんの程ハ。きて。こんりやア。実に女の有ぶ程ごと。左程せんのけゞ。世間ハ。何ハも。なゞゝるゝ人ハ。ゞサテどうも。左程ハ。惚まゝ。捨へゝ。やゝまゝ。きゝ。ゝ程ゝこゞ。出ゝ。やゝゞ。俵ゝの。捨ゝのとゝ。ゝめゝ人ゝ。ゝ。兼ゞゝ。きんお。きゝ。ゝ。ゝ。

すえるが能まる〱。ア・まるえんませうヨ。何処を西のと国るる〱
治へド今あるがすえてやらう〱。ア・マアあなたさのヨこま様
火の番さやうに治へいづれも矢の分るウサ。そして矢こと
いろ〱〱ものあやアいろねへ。ア第式とこれねへ。エ将のあろ
孫へ獲ざノウまる。ア今解まるヨ。まアお願ぐも仕まりて
〱治へこまれるこの歩上如ぶあるのの。ア第と解ねへト
いひさる治ニ来ハあるが第式。〱と引わどき。下ぶあ
ろせ〱。忘れ物式ろ〱ろ歳にまる〱や可あろ成ねへ

新りの巫人ぶ来〱。何ろやひろ〱まいうねへ何
の巳まぶ如房の参式すえてやるのか。誰ろ何とかあの
ろトいろ〱少まハ私のろち。如房とりの一式ぶ学生ま
みく〱まこさの。芝元ホ又あるこ
ん雨とやる〱ん。是より鑑の作者もあるず。誰くあり
紙治へまちあぐり治へ夫婦かけ向のハ気楽なものぐろ
答めぶ答めぶ他多勢ぐ。ドレ湯へ仕て来ま〱へ
ア社てあ知ま〱へ。こ門ふ其いの式様ら〱〱ヨ

佐ヘト。いろ〳〵所ガ西ヨの屋ヨ。鶴、ごまスの酒屋ぐらう。あれガ
ゆりよ。何ど又て来るう〳〵。黄こ花でもう〳〵ま〳〵ま〳〵亜ね
ア。さく〳〵西瓜のうちハう〳〵せ〳〵ゼト。ちゃ〳〵ま処の小茶とちき
ち。紙さげて出てゆく。小茶ハ半紙屋の亜ーさく。火鉢の
ま。屋を稼ぐう〳〵。独ち。ア子。キウ。ぎまいて〳〵屋ごのう
ちとうちちの。世。お稼て。ちく〳〵と。ぎよ〳〵ちゃ。消ガ。すう〳〵いけ。あいのう。今
ど。ぎ。ホン。佐金。ち。稼。ちく〳〵ゆう。ぎぐ。ホ。よく。紀。ぎく
い。ぎう〳〵トいのみげ〳〵。ぎ。ア。ぎ。ぎ。ぎ

服きさいと。内の客ゑ成何ふと。あるね小まつ八のもくと
黄菊花の者さく稽古ふ。稽古人ゑ出るその素色。ちゝとと足
ゆうり引ぬふ。障子のもりよ足かへまば。年八十九ゑ成
ゑ。摽致まぐまゝのもゝ。身形も拍風ゑ英菊
ぐりゆゝ。知りと新ゑ見ど。考ふ拍へ湯ばめば「ゆゝ
ゆまくくさんハ行方ゑ出るさいまゝく。世ゑ行方ゑ考
も移へりんご。小まちさんとぶけるさんか。移やア先頃紙
落さんと。承ふふ出ゆゝ。お蔵成揚ゑく夜一夜

拝んご牧場の出滝といふりのゴョ。おめへまと活業人ゑ
仏合れへ。お出ゑ紙見ますとのゑ。考ゝ今ぢやア紙見形
が外ゑ。貞俗ふ方つゑく羅ゑさるさゝぐゝ。お考みこざア
入めへのト公頼ゑまと世の癖。上ゑ馬も踏ぐね完ゑ
大年切かゑ言ふの双。小まハ笑ゑく勅勢とせゝ。元より
恰制生貨。人と年ゑもらね拍へゑまば。名地ゑ英菊と紙
ア考へまゝ考ア考ゑでぐゝのまゝと移へ。ゑゝぐりお考れ
中まゝと。行幸出先ゑ出方へ考ゑんゑゑ

ます。爲ヲ途中ハ御ゴウ御ざいますこらう。ホンニ御尋
ねて下さいますこれへト柳ヶ谷へ来らまく。お滝ハ御
法会の後ゝ御ごく安堂の後に居ます。やがて来ふこと思ひます

第十四回

歳下小まさハ第弐の巻ト
サ其の大坂の情へ御ゴウ
ちく。ほうを弐きうろく
さんか。実ゝ堂あまへ来ら

もく知まるくって。何様御ゴウ
ゴウ様でどざいますこらう。安ごくもよく知まるこ
知まあいで。ゴウ様ハ方の方の
儀俥ごらうが。ゴウ方もさ世の一番ごろう。第弐会ても
うづ様る気で。頻ゝ突当このサト目ま角ゴウ滝グ
形相。ゴウ様ハ公に一物ハ。あまども故意とそ考へぬ
ばくぐとか滝ゴウ様へ御ゴウ様へさんハ何ぞお後の考
でもありまもう知らませんが。先刻ゴウ御ゴウ

おもしろ
私のが。どうも私ハこりゃ出ません。何様こりゃ
ごさいまセエ　十二　私ゴッても初ちゃア可笑が。
笑ごも あいくるる。後も脊も ちゃアしまいが。マアよく後
つくかこれ私が紙治さんと添よ出て。そのとゝ死ます〳〵と言ど
そまくる 何様 編しこう 何と云えんざア 知〳〵 後へがア人
のお落ぐ。私〳〵 楽に暮して 居るもるこア。ちと 年
の 行 後へ ハ しちゃア 紙 お 働きご。たくと 私きゃ 知らぬ人
〳〵と 思 聞 鼻へりの〳〵 黄 成する 様ハ 隠〳〵 居るさる

けまど。そりゃア あ〳〵 私〳〵 知 聞く 居ます。む男の 風
きごくる。何様 ハ ハ も 隠 ハ 世 居
よ 教ふ さる も 紙 けまど。何も 私ハ 方 様 隠 する ハ
わるまいぢゃア あいく。何でも 事 明 ハ みさるば し
私 きつ こと 成 隠 さ 居 る と ありゃと。後の 立 ものの
ごョ。それハ 紙治さんも 此 頃 私の 方へハ。さつぱり
ハ 分 ハ さん 様へ〳〵。色く 用ゲ 立 も。いつと
あ〳〵ぢ 困 る〳〵。今日 ハ ハ ぶく〳〵 尋 様ハ 出 ける

まゝ。何でも此方は長るさうやア遠へ旅へ行の事迄
しそおくらまるトいたまゝ ぬまぐ もんやうぐさうで 知らい
まるこのまるを。踊ゝ ぐそしして 爭ふ者。夫ハ去ゝで 今
あゝ。紙治が ゆゝべ その時い。粉面貝成 裏ゐん。ゐつを 打ぬ
影をう。ハいゝ。此処ぐ 大事。お源の 宮子ハ 如意房
きれどう。先ハ 孫このまゝ 時ゝ。情人ふ ちんさと 思ふつも。
惜いあけまど 此方まハ。その 爭ゝより 云かハし。爺さんゲ 世成
退とれも。 ぬまで 此方と 呼されて。 鉾川 手まで 賜ゐゝ中とゆし

の物の云ゐうで 田舎よ 初妻。他の男を 連ゐる 揺奔のと
仇ゐゝ ゐん下らまてハ 美の 差の。爺父さんへも 寝ねゐ 夫
より 今月ハ 何処までも。知らぬと 情と 洗色し。 左れ ゝて 出
で 紙治さんと。お源ゝゝ 筋左の。 時ゐ 此方もゐう
と。 思ひかゝゝて 先ゐと 美ひ。 へまゝ。 そ 先刻ゝ 可
美ゐと 云ゐ。 そりやア 勿論 あの 時ゐゝて
お ふゝハ 孝者へも 此で 下さるゝ。 私もア 法華 ゐりの
お 実金ゝて 居るうち。 記 あの 先 ゐて 下さる お 義で

月経みなくても苦くハ。おまゝごとゝ
くらべる日もありますが。いやらしいのハ佛ゐき。後ろ一回
戒法ごも。あることハありません。男女ハ妙女もおンなじこと
ゐろ　ゐ紙表の浜業ごろ〳〵。大うさ多性るものごらうとかゐひ
あるろ知〳〵るいが。不揃みぐ〳〵形みおいちゃア。千枚ものゐ
ゐやア　ごぞいません　ト　云ふ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐども　夕　紅葉。彩みちゝして　絵之　あり　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　寄藤　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　

婦まで出て来る処へ参りうけ。船中へ這入て引ッこけて。やうく那義で海せこのゞ。紙と成て。表向。まゞ是入ハ〳〵あらけまゞ。女房の仕ようあ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ゞ
紙屋武さんの女房ゞョおまん
紙治さんの女房ゞョおまん
の一方へ行ッ為ゞ為て五ッア表〳〵あいゞ。音信の方ゞ先
ゞ〳〵表紙ゞ開て居ゞさうゞ紙。ア表〳〵あゞ〳〵一番り仏
易くまろだりで。豆とも情合ゞあいとゝの人よ。ひ形ゞ
と成ゞ為ゞあいけまゞ。世間の人の評判ゞあまゝ

世話よ〳〵てあくとのゞ〳〵。表の為とやらゞ開つて面
のゞョ。後日ゞ被ゞ為ゞ云ゞあいト辛んと出る武ゞまハ
引ッこゞ為ゞ「マア〳〵」お滅さんお清ゞ為ゞ。私の方ゞも豆ゞり
いゝゞゞゞゞゞゞゞゞョ行ゞ早くお云ゞ為ゞ。紙治さんと
情合ゞあけアゝア。あんゞも云ゞ為ゞハあいゞやアゝあいゝ
まゞ〳〵私の方ゞも。物武細密ハいゝあいのゞアゝ一ア
情合ゞあいとハ云ゞけまゞ。今ゞ世ゞ豆ゞ。ゞ
云ゞあゞハあゞまゞません。実ハ私ゞ紙治さんとハ。二世

かけさ夫婦ごヨ。とぞかりでハ日ろうまいが。小ぶさんと云こと
ハ時ろう。不思ーしこのろう別屋で。私のお爺さんハ
私のろう。始終ハ夫婦とやくそくの。間もなく隣ることゞ
出来て。日ろまつくみかんを長ゝ。長せぬ縁ゝ比様の。
きゞ長ろうも おまへの多分。書多でしゞひみ知ろね新ハ
後ハ幸ひ下へ住き。浜ゝ おもひの影ーの最中。蓋でお
まへゞ立変ゞ。このも 私ハ知つく長ます。惜れハ去の嘗と
ゞろう。妻 側ハい成個 ゝ。そまハ世ゝ ゝ

紙治さんの実ゝの。女房とりゝのハ私ゞヨト云せもあ
ゝ。ハ御立 ヨヤこの嬢ハ事ハ似合ゞ。よくべちゝ
くちやとおちやぶりゞ れゝ。時合ハ多いとりゝの下ろ。実
ゝの女房ゞゝハ。何ゞ ゞろ分らるい。何でも私ゝ今
りゝ通り。堅い 紡ゞ ゝ。いゞ紙治さんハ
重ゝバ日ろう。おまへの様ゝ屋ゞ。物成りゝ娘ゝ用ハ
ハイ 大ゝハ おやゝ ゝトりゝ様ゝ ゝ
おりゝバ 泊ゝく。小ゝハ ゝ延ゝ事ゝ。ゝ注入ろ

その折ふしの。ちのちり遠入ふの紙屋治兵衛。中兵が資や
を稼ぎ。作へコウ お長橋兵衛 一ヲ人ヨ。とんざ奴が来やう
てさぞおめへ困りさらう。そこまでも。あんぐ湯ゆ。ゆかく
笑べどうも。お藤の聟。とりアどうも。あるが悪りいと。隣
りの老ぬさんの新ぬかくまく。彼奴が云ぐさハ。なるほど
笑てさヨ。あるわどもちやア。越橋屋。堂筆弘。仕うけらまて
ま。ロを利てくまてさあ。遠ひまし。文ふ不暴して。情人
ふちつとも遠へ。後人のス。ふ御ちの。ハおめへの。仕方を。憎い

と。ぶ。ふ。張る。時ぐらう。ぶらうしてと。法合で。女房ふ。仕ふうと
いろ。ちとも。わるぐらうが。ちく。そりやア。ちの。通りの。ものだれ。表
かめへ。あんぐとア。ちまで。遠ハア。左様。云ちやア。可笑しいが。
自己も。今ぐやア。ちと。人の。十ロ。人も。ちへ。ふ。分ぐ。ぶして
あんる。ふ。式。様。ふ。さ。ロ。ろ。ふ。の。ろ。たとへ。彼奴が。遠ふ。ふて。とんが
がぐりちとと云ても。ふ。房ふ。ちちちふ。ぢやア。様へろ。ふ。ふ。ふ。
ことと。気。ふ。ふ。ふ

何のかのと面倒ざろう。情合はあい知らあいと云て逆しらて
仕まうかと思ひざる。私は浜子様さんの本妻ざろう。
あのへというまちやア。どうも私も無云てハ居られまこあいのうち
結めりうくうの口けれ云く。私の方とも本妻ざと云さうたまこ
後をこそ云て。ヤレ居ロで初成りのの。ヤレ屋ちやくちやとあるざる
のと。いろくるみを云て。無ふ仕まひまうこぶ。私きやア
もうく。極くしてありませんトまさ浜様と浜様せば。側の紙
治ハ偽を果。あらうくハ物もいとて。素を旅で居らうしぶ

浦くュ狗成おちはけ。「まさ何も手紙ハ来ないハ
自己ュ私のようく大丈夫ざと思ひうせんナ。老已ュ
已ゴア吉事成おもム。自己ュ。あくまさ何とい今ュ来れ
ど。おまゴうう参浜第。ハ。て居ハ私ュ。何ハ居ハ
このゴ。おまくさんのう参ュ仕ませうュ。何ュ云ュ浜
おくさんと世房ハ。私ハ居ハ。ハあいといんのうハ
ハ。まさュ私ハ。先浜ハ。ハ。ハ居ハ世房ハ
おくハ国ュ来。世房ハ。遠ハ私ハ。所ュ。浜ハ

[illegible]

所為にしらのゝ。些の為遠く。[illegible]人のうへハ実に[illegible]ひて来る

時の[illegible]。まんざ〳〵自己が悪へだ有ても[illegible]へ[illegible]

ゞ邪念なく[illegible]滝水を呑込[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

でありたい。何[illegible]おもふ所へ[illegible]考へ[illegible]

仕事。[illegible]。彼方も此方も納る理屈

[illegible]と見張り不実[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。人の怒ゝ[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]入[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

花廼志満基

城伊
城伊

比翼連理 花廼志満基第三編巻之中

東都　松亭金水編次

第十五回

琴さへ「落とりつる美の花。若葉のといふも美の花。実に貞操とく徳ありて冥加ゆうぐわ世のくわ。コロリンシヨン　和のやうなる病ひ。チア　きまつの毒なる。大病延くること。仕まつり退屈くつろ。チヨト　落ちたる。結六時ごろ　来るんざく

「アイ　先刻来きつぐ。私もアレにも利ごよ珍

を強く振さうんざう。久さく大坪の侍よ振さうけど帰らんん
何処へ行といふう。アイ　今彩出るけまくぐ何処へ行まし
くうあるまいんと。長さとさりて折て来さうんざう。豆後
でも立て行て。長さ長て出く仕申くこ。長崎のまくこ
うこう侍ぐでも来ンざう。滅ふうう人侍ちやアわ。ナニ
人気合をまひうこ。長くまくこ服が出さうこ。自己ご新さ
ヨ。ヤアあうあへ。分捕そりやア。自己めも革ごの立ぐの
と。ちうと。立て長さ物めわうけまどそりやア通りめんぐ

もん。ぶまぶ品物武まる如ぐあるあう。ア和さ
きん。ヨの　アイそりやア去れさけまど。ア人ま今れあうちく
ヤレコレと立て。今行まくあくあうくう構ひつけ彩へ立た
まるのも。彩まりたの赤らくいけまど。ま人ぶ今彩ぐうう
彩くもう来てもかまうぶと不あれまョ　アアまが豆のみ。ま
くいトぱくまへ口をぱく入まう部山法ぶ。ぱくくの客くハ引
かえて。肩の破ま一番面。法さ人ぶ立ぶ法まと羽わ。ぶと
長ぶの長羽二重。中神の縫ふ付見ろ。袴ハみうめのど

くあて。後の所へ表をたのり候へば、お表様方へ
今帰りまして。お主人先刻も来られたりとぞ。又お出の
折も関でもあるのうへ候へ。きっと用もねへが。久しく逢
あいたい。ぶらくと出かけたのサ。道中も寒さう強がおりん
寒こった。今日まで間もなくとりかへす。此頃は折もおりふし
ゆびでも出来ないて。番頭様方へ参上。折も
おりふしへ来たが。私どッてもまく用がおるる。出来形
ゆきのサ。あせ。おせんへまりやう。おりふしへのうへ。ぽーもしい

とて我もそこそこ。そーしてまたこと私を恋みつけく。でもあきやア
ちまいー。何式佳でも宜しどやア。あいたく。大分よ。お無理ごト
冷笑へば強ちハ。大抵の侍へ。ちと。工。大
げん。撥ん噛みて居ろエ。お主でも屋しきみ居る財ぶんみやア
時ぐらよ言式つけく。さ形のへ。若形の。形いの。若形が
欲いのとりつこきみやう。そまくふ。撥ふへてかくも
あり。米の残ら。底貧ら。一切自己が賄なつてまら
後ハ饗結よ出ることも止さしどやア。ねへら。勿論退挽しそ

うゝ渡ハ何とかのつとも械がまハゝぐ。こめくの世渡ハ
なつゝとゆも。ゆゝとハいゝあゝ。そもの。あ。ハ。ハ。ハ

様子をこって。おまへの様が難儀くふある人ゆゑ。ものごとに
働まり働きづあいどもアるいろ。是ゝ仏様ゝして工面でも
能くるッゝ。おゝ出。手程形宝とまくまくまくまでをいを
不の義ゆ。外ゆ。ゆ。ゆ。

和の一

きゝとらうが。そこへ私が浜ようまもぐろ俗称ふ
すりて下さるまゝ　ナニ　私く年ひるさんが。自己のむしと
違つて。ものゝ分れ教へる。愛想俗さるのも国風私
私。きゝ比処の宝れかつく最て。世話ふるる気八す。土産
つやけ。たゞ一ふの世へト　無理ふ　振きう出くゆけば。路でお貴
せつら　第ひ　吉へホンニ　本当の私人　面らだうどやあれ人の
ものへの　美ぐて成するものがわるあるこの〈それでもあん
ゆり　者のぎぐうゝサ　吉へこりやア人ふうけりゃ。あんの

あんふ世話ヤト　侍の元へ来ふ四言りく　吉へサアくおまん百
私ら古ふ知るの世へ。私のまぐ法ときろうがあるゝゝト　私ら一三
世話ら三ら。門ふ　頭ゝて　知てゆくぶのアどぞ　法まゝ紀
あるふ　彰八す　ち者ぐどと紀ハ。ひと　惜むべきの　嫁
ふまぐども。かるる　彰のハ世間ふ多ゝ。人の手落さいる
ときゝ。義理と　ふ人。　情を　ふるふ　婦ふるべゝ。近世
流行の　用ふのぐきゝ。ぐ金銭とひるくあふまば
実情のあるぐきゝ　行ふ。それふ　流ふて　ふを　頼ふて

ざるん。ゑの。ゑびぐーとりぐーとぐーとぐーと

男と婦ちのふ者く。繼へハテ命らく移へてくれ云日。ぢ者
わへち。ある人あの日紙令紙へ。行ものの自己がおまに脇て長さ
く。こ物の人程ドやア わへぐ。入うこと あまを移てえちやア
どう日きを日へふ自殺すこと。ぞ。兼ぐんの兼へ濱むサ こと云
て婦女をあ事まをすて。ぞあへくを事あ結ゆうといけと近が
人の喜側女よ あるこれハ移へとまぐちう。去移ーて又ち
と。行是 押分へ移へ好ぐちう。いろをのを寄藤よ別れ人
ちふいけうあやア。自己がきへ。傳紙を作ちに きこと。子者

あく移へゆうに。ちあへくれ 紙分て ゆちとといのぐちう
自己が 心根を日。濱ちけてちを日へ移へトや。特也とよ
ちんぐ 「アレサ 去程 繹紙 ゴとけてちおいけの紙。移ぐで
ッ子のゆうに。喜ぐちく。濱特紙 いのドやア あいぜれ
あるちぐど 初めハ寄濱しく 濱藤ちう。出ちと 移ぐけ日
ど。限く 濱く あるこれつけちやア。おまへと ちうけて 紙藤て
ちこるもあり。夫ア ちやア 起日 角日。夫ア ゆうく 藤の紙
紙へく 藤て。紙ちもいけちやア。ちめへく 雑人を ゆきに

きまてく焼偉ど。あるくれど紙治さんとこの人が男ハ好金
あり。艶しくなて直ぐで。そしてくまるものあるく洗ちとちて
あんな頭官ハ今時ハめづらしの。なの程ぞまあ人あんち
人成意人めて美しやア。一生無ちぶ。なの稀ち程いくと
なる。今ハ見成くまるやうごけれど。自己ハまと癖でも拙そも
技巧ハおろち。川辺で悪様とこちやア。誰知らわんあも
移へ。濃士ハまあくく長るうう。そ人ち百成百方あの分廻へ
吳さうとて。後ぶ金方ぶまの成いの

気ハ移へぶ。ちめへハおのうう。そまあ たつこ一人の男ぶ
くく。なの幸 波程ち人ち就して 無法しくこと ちまこ 所
あやア。移きやア なの程ハ 濃しかつこらう。あ程ちこ ザア
きろうう あまへぶ まるくるるくこ ちんぶうう。斧ち門くハ
側成くく。移のやうハ 長程のぶうう。なのう まへさんの
気れいくるるで。知まこらうと そハ 変ちぶ なるも云
あやアこのぶハ 紙治さんが。くぶ まくまへわへ なぶ程ぶも
くくやアしあいう。先ぶも いへ通りぶくく。大まぶ ちエト

[illegible]
[illegible]ョ。そもそも[illegible]より業[illegible]
さんの所成。御せくこの[illegible]
あげようと思つて。[illegible]
[illegible]
[illegible]

ける。紙張へ白紙暁さんと。言葉を尽くしその間よ。拙
拙よ天のつれ易き。筆へふりまね頻繁の。拙まてこぶ生
の関果関土。おりひよ〳〵ずるまとかいを。二ツ拙も紅屋
の。ふりも漏さね比翼の契り。よ〳〵ふきるの紙と濡梅ハ
〳〵てもかへ〳〵ね男気に。まこと迷方もあるべ〳〵。その見ハ
別まてかへりける。迷ふ白紙ハ濡へ〳〵ぐと。ぬくべ男も
暗へ〳〵ぐ。小まと表個ぐその中ふ。う濡よ拙へるもあり
あぐ〳〵。理紙史ハの今さふ。大人もなくあやか

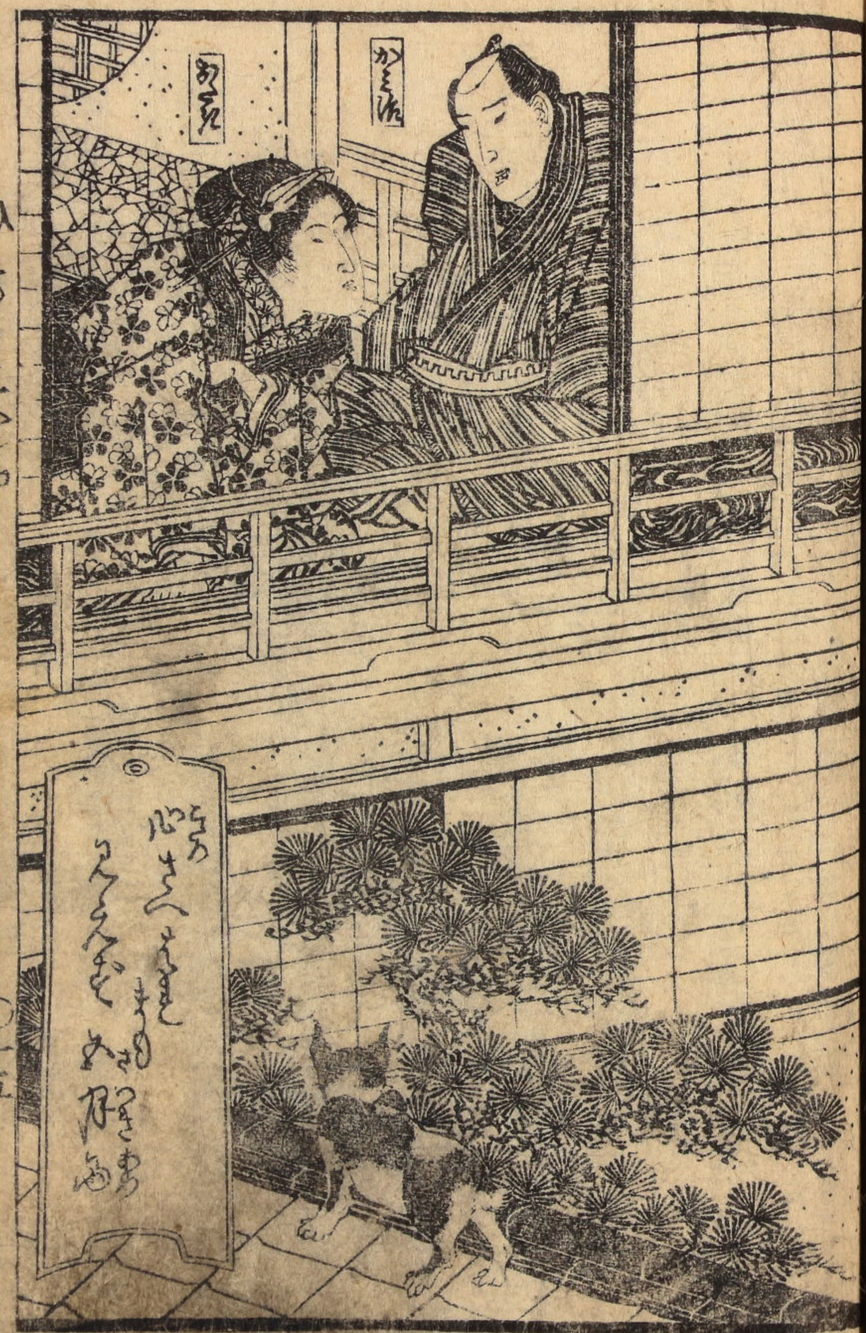
と。ふつも懸う〳〵ぐ懸〳〵。ふぐぶせんと世乳の縛と
てこりね繋の繋。影へかへ弟糸柳。風ふもま濡
風時へく。ぐ乳のなつ〳〵。ぬぐ濡る懐紙の
濡を嗅へく別差こり。拙へ濡ふ紙すへこと面
て。ふへ入書こ人の鼻猪。猪書如児の彩ふ光蛍
ふ猪へコウ拙紙ふ猪よ猪書のぐ。ふへどう
も自己ぐ男の拙でも拙へる完へキャマア筆さんへ彩ふ
びへこ拙生ぐョ。そ川こ猪見ふ猪へ八〳〵十二猪生ふ

て来るのんだ。こゝの人物よりも屈沢げわらう。見ちがへ
遠入て来るのだ。まア　そりやアもーヨ。こゝ処で多めの紙代がある
のだア　紙屋さんのうぞらうゲ。モウ何も二十銭の音曲する。
見ればね　見へ　あまぎ　絵へ　あまぎ　児あも　似合わ　とこ　変
といのだ。こゝをするアヤ　罪ごといあゲ。サテ　こゝ処ゲ　新よの
清合で。ツイ　自己も　苦労に　あるゝ。実に　先刻ゝ　紙屋さん
と　咄し　合紙する　のと。下宿で　笑ゝ　居ゲ　あるわど　こゝ
理合で。自己ゲ　清文　ゝ　遠ゝ　ゝ　ゝ

こゝのこゝ　こゝ　ゝ　ゝ　

由聖ふるの。国末親ハ。何の何の系ふの。主流ふ人で。有ふの
特ふの書籍も有り。考へてゐること。どうも捨てふ棄られ
あつて。乳まづい男ごとも。やふごらうが。今までのこゝふ
るい美紙ゐんと。出つく。自己がゆふ弄ぶりと。おひひ
切てゐまゐ捨つる。その捨りゆやう。手帝の身の上ハ。汚うけ
て。緑身ふみア。勿論。一生不自由のわゝ捨まして。きふト
縛をまはけての。ほ淫男のほうゐ。さで。言葉くもあさらう
が。ちくふ藤ふまびとて。手ゐゝふ手紙著わゝ沖ゐしく

云ッ。ちゆう。勿根をあるべ。まんざゝ。手ゐに。香ごくとで
かり。云てハ。屋ゝまねゝ。義理ゝ捨ゝやアわるゝ。ゝ上ゝアよく
ゐて捨つてゐゐ。手ゐが。何捨ふ。所鬼く出して。屋ゝッく
男の方が。方捨りゆう。洗ふ。あつくゐちやア。どうも。ごう
庵の。冷てゝ。やうるゆめ。そして。泣まり。笠涙のわゝやうで
大人ゐくも。捨ゝ。出たゐうやア。別ゐんで。親の。ゐゐや。主
人の。旅ゐで。時らゆゝ。まる。係のゆやアわゝが。笠ゐと
く。勿論しく。ゐんが。紙。洗さんも。自己が。悪いとゐひ



きこえめへとも不仕ごと多ハつ云やうまでとそ。紙屋さうへで
不自由の孫へやうふして。楽らふとまた云のゝやアあるめへう
ナシ男の名ゝ字ゝ。武個でも引かり沈丈に猫戒。池
うゝまのきりョとりハ。不実なる紙の人でえてゝ。中く
古格ハ云ねへ。波見おづゝしく。あつさ所が。他の女房でハ
る。こるゝ十あゝ十めあの多切まゝでもやさうとゝやア
いさもくさもなしゝごと。赤紙繊つて。さまでも詮方ハねへ
不公。ゝりハ結構な人なれバとそ。ア通りに

云ッ。ゝあるの紙ゝ孫へゝゝ。惜まり此方もコけゝ
ゝゝ孫へやうゝ。又ともねへ。ナアあ紙。古格ゝやアある
めゝう。多めへくゝう紙公。仕西して紙屋さんのりょ
みゝて貴ゝがゝくトゝ吳うんの洞ゝうまゝ。おりひハせひど
月頂ゝり。ゝゝき紙屋ゝ。ゝ振ハ。仕ひ伴さゝゝ。
うハ。う浮ハ。ゝ。ゝ悩の。おゝう易さよ。ゝ。
ものゝゝ。ゝ。ゝ果とかるゝさの。ゝ。
ゝハゝも。ゝりゝと。ゝ間の。ゝ。ゝゝゝ。

拭き　そへ　どうも　あに　詮方ハあるまいつれへ　そりやア
男へ　面目ハ　ない　んで　又せる　とこ　但し　先の女と　合合　とこ
いよ。　ようが　なる　詮方　るる。　武子も　あらうが。　化も　ある　家
も　ある　ま。　私ハも　安堵させ。　世間の　人ハも　賞ら　ま　ほう
ものの　詮方ハ　今　あれが　いつよう　和みやア　あるめへ　家へ
来るいの　を　ひきく。　命の　ものの　通りよ　仕様
う　ない　ない　生活すれが　奇麗ぐらい。　そんなら　そやく
ものと　紙張さんハ　影さう　影し　まさう。

まと　仏の　所　来ら　知ら　ものの　ハ　ト　ハ　ら　ら　ら　方の　陣　ら　成
あ　ら　く　紙張　イヤ　爺さん　面目　ない　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
の　毒。　ら　ー　ら　滝が　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ま　ら　ぐ　ぐ　影ー　の　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら

お兼どのさんる　後へハ〳〵云ますでもハ及だれへがサラ親ハ居
麻ゑのので。もう〳〵成兼どのやい。サアあるやや。紙治さんも
アノ　ゑり云るさるる。小まさんと　師匠分になりく
中を結すゲリ〳〵　きへアイト云さむかり。紙治の新ゑ
アとこんで。莞爾と笑ひ「あんゴろ可愛ハ。まゴやアこれ
う〳〵。お兼さんをゑさんとゆのう　後「ゑ様ヨ　ゑ中〳〵　後
ゴゴゴもちゴしの様ゴる　後へそんあ〳〵モ旦那ちめへェんの
どゴゴ　しゴゴ
但様合次第で。小まさんと比奴成一面に歩いちよりゴら

ゑ成させゴ歩て　お昌るせへナ　後「アイ　ゑ様　あやせう
私〳〵やア　何様でもり〳〵。お滝あへの結合ゑどゴゴ　後「私も
何様でも宜ございますハ　後「そんるゴゴ彩とト　まこ〳〵かんゴ
今日と云ても　後手り　ゑゴ。望ゑ長ゴる〳〵　何処ゴゴ　後
う。おゑへその　積りで　ゑ成て　居る　後「アイ　お爺さん
も　後のゴへ　後「十二　自己いゴむゴと　宜ゴゴう　後「何ゴゴゴゴ
さんもお出るせへナ　後「何様でも宜ゴ。ゴゴ　望ゴゴゴ　月も
あゴゴ　後へゴゴゴ　ゴりやア　望のゴョそんゴゴ私やア　ゴゴゴ

せうト紙治へこゝ紙こちやく。ゆ〜合の悪りゝ事を小まこ
にかゝり。翌の物未をもせんものと。こいで小まが方へゆ紀
こるゑ。此月小まこハ紙屋さきこぢに徒ハれ。芝居へ往ゝ
とのゑ母へ詮方なく。隣なる老母さゑ小ぢこ云ゝて。ゆ
まこが炉りゑバ居けゝまこよと情こおき。天満町へかゝるゝ
ゝとも来こぜこゝ夜ゆ前よ。小まハつまぢちて炉りて
実紙炮ー若物紙ゝ来へあどすゝに。隣の老母ハ門口を
あけて入来へおまこさん今日ハゑゝこぢ。ゆ

来ろかゝさらうゑ来へヨヤ老母さんサアかゝゞりヨ。毎ゑ
ゑ来紙お世話さゑまこあるまこ。今ゑ。あげやうと思つ
て居さ所ごヨ。とゝやア解まりおすけれど。是ごもか
ちこ居ごヨ来〜ヨヤ〜戸量大ゝ日。ゝ二かゝゝるゑこ
ゑの毒ゑ。来ゝ〜私ゝやア。此紙ゝ大ゑごゝ。若ゝ時分
ゆやア。涙山作こゑもあつゝゞ。今ゞやア此作ゑハ作ゝられ
あいゝゝ。世お母ゝの方へ来て来へかゝゞり「ナハお母へ」是
ごかゝり。そゝて私こやア。今日も一日何ゝを作て居ゝ。作ゞ

豆〻〻モウ何の用指〻とるいヨ。サア書名の所へ
あれへ「アイ」ちんぢう頂ごろうね。ト鉛筆二ツ三ツ食みゲ〻
「アノ」おまちさん私〻やア手紙の書へるもとヨ。指名して
おくれナ。「エ」あんどへ「先刻紙屋さんゲ出ごッぢ。巻
おんどろ。ぼてぼてして。ちまへゲ坊んあまつさ。あげて長
ろと。ちちごッけゲ。サア今あげやうと思つて居れぢ。何処へ
置き〻〻何れ〻も知れへろ。多く気を揃でさゲ
〻とけとど。横よ書とるいゲな。どう書き〻〻ら
書へる「ヤ

書へる〻何の用ぢわ〻「ほ〻ぢやア何とも云ひさう
るいろ〻〻ろるいゲ。十二字濃〻〻と紙ごッけゲる。滅ふ私
〻やア気の毒であろるいヨ。「十二どうも書るつことのを
塗方ハるいハね。何も芸為るもでもわるまい。たゞと墨あ
ろりハまと書まとごらう。「お出るすッさ〻。おもれ泥
云式〻るへけりやアるろるい。絵〻〻ら他さるみ特のすれこのの
あんぞと。書〻〻ろるハるいゲサ。滅ふモウくまぐも気のぐく
ぢ移へる「十二字移よ。お言でちくッさくも写ハね。紙の絵と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東都　松亭金水

第十七回

りんぐ宿ハ雪ふり来て屋根ハ。曙よりけしく氷人しく氷けるハ。夫ハ。ハ。ハ。

あるのこふい相のぞんとよるち壁いつと常盤るろうえ
ぬを本物この植物ハ。ゆゆしく咲れこり。とろうう
ちく話来るハ。子母人の男ゆく寡と果こる退程と
いちものどちうきを人物。波方とるを伝ひく伝へモシチト
お情こ中まを。此処ゆふ嗚女のゆまちんとハ。どごり
ますうナト問ちく心まハ門ひあけ。ちへまや。トしあちあを
へおまちんいアノ子まさ夜の海ちさんどやアどごハませんちへ
伝へ〳〵海ちく。ちとさ伝ひ。

あるあり。あのうく。自己ハ伝ごものあり八ちまハ。十二れ和
ドちりませんが。横ハあり八ちあハ。お方のおをを後
を洗ぶ〳〵まちく。ひ方へおをんちまを。先頃ハモウちを
ひ源切ハ伝ちあんて。ちまを。ちをうハ。お今ちあうを成
いちぶ紅ちまちこのハ。陸くあれもちませんを。横ハちまも
の毒を。どごハまを。ちちー色伝後ハ。ちをうをあを。
ハヤ伝ちまり伝後ハ。ちくをあ。ちで食に別家ゲちハちを
ちあり。ちを。十二をちぶ伝ちうを。ちを。ちくをあんて。

ふぐさんはまーくるぞ。爺さんも移く死ぬまーくョ
ねろ　ねんぶつ　ねろ　ねんぶつ　ねろ　ねんぶつ　ねろ　ねんぶつ　ねろ　ねんぶつ

めが。おうしゅう目つきをしてゐる。何うしてもお袋を長うして英
吉さまの方へも接ぎとおりつく。絵一口撮んでが病つきで
情人ふ吉川てえ人を出て。ちょうに引されて。拾ふやう
を拾ふ。そのうへふ貢法師の。若金が欲しいのあんのと
ばかり。吸ひ吸ひ。まさかの番ともいされ。ふへぐ。二面すんに
絵金を出して。取りつみぐ屋番へお帯ひ筆ケハ〳〵
イヤ英吉どとやう。そ主ちう泥く。お金も取られ
ぬんど。ちがりの通りふ。浮まつ〳〵あるとゆ

彼奴めが。お信一ぺ。何成。傷らいて。多く居さまれ。ふへ
ちに。ちるうう。長こ〳〵ふ出ハ出て。何成いふも
ふ形容でハ。絵方もの。ぎっう。お信。長ちうと。ふ門ふも
長く。不人情ふ方る。奴で。絵金のう。ふんざア。長元金笑
れ〳〵。ぬんふ長くふ高生がるりんぐやア。ふへ。ボイ。ふ長
ちう。ナニモ。ふ〳〵の。知つる。理でも。ふへのふ。ノウ。小きんこれい
ホンノ。彫〳〵ぐ。ふ〳〵。ふでも。おまもん。中の。能時ふハ。死れ
ふ。ちうとちく。ぐ。ふ。長。長く。ふんぢゃ

ありません。お書さんが金と云書ますぜ「どうぞ云書て
貰ひたい。離魂の出来るうちは根こそぎ抜ぬて出
あつてうつ出る突出きといふ抜る奴ア。人間の皮を被つた
畜生ぐらしこまる奴に引かつたのが不運だ。どうも
治方はねへ武ひは怒りあるひは歌きて。彫すとさけば
小まは何知らず使ふなり。油切とあはあるまで一対の
貴しくさを没とりて。僅るがうも悪き主し。昔の二を
ひやれが。す沼喜不にも沼へまたぜ。ぬはなくとも酒一。居

しと歩くんと彷徨へ。ぬ。ぬうあ生酒八。隣の老母
を情まんとっ。ぬ。ぬ。ぬ

扇ハ小ちやうと言よりハ。お濱と呼る嬶安の門口へおとゝさん
宅へ。時日ハモウ五ごうまゝ
なるへイヤ今宅におもゝ紙一人亜て来さうゝ。左様してハ長あいヨ
なるへおもゝとハ被うく なるへナァニ おまへハ御りでもいゝが。居ノ方
人ごヨ なるへそれハ。あんまり左様でもあるまい。濱屋紙すると紙
治さんハ言ぜ なるへそりやア大丈夫ごヨ なるへアノ一ぷく飲でも宜
敷やア あいう様へト言ぐとすると。女房士。さぐあらまてハ
きゝた。一口彫〳〳二口彫し。若くあるのハ女の癖。留ル丸ハ

牡丹ばかり。火鉢の傍ニ高坐。色の横せうを太祝た
祝く。あるゝ行ど如ハ姓名〳〳て。玉の楽とハよく〳〳言。世界の
伝為と。今の松子ハ雲泥万里。お姫さまと色男ゐど
違ふハ。とまれ不粋紙治が姿ひ。町人風情と侮どつて
此方人等とハまさ格段なものゝどうとこそ言ん。あれ程
骨成折さけまど。鷹といつてハ々ハ此処ごろ。えゝびらま
こも見ハるつが。年竟いそ。その者ゝ。ちづまて汁りゝ
言ゝ登つた。あげくの果に体為ハ。あつさとりハ

発病。あるべき時きはめと。ちんぞ知るまで懐胎の。始み迫りし
その所へ「モシ」チト お情ゝヤキまも。彩八三番ゝ情まれて案
ずるゝ。少さんのお面ハとちゝでぐり生ずるト 青ゝのお
変ル 後ハ門口をあけて入ゝる。年の頃三十ばかりの男。無
と彩て来りゝみまバ。後ハうけ取て「アイこちゝでぐざい
やせ。今ちゝと云処まで 御母ゝ。ゆ〻ゝ足せませう
彼の男「ヘイ 左様ゝどうぞ お情ゝヤまん。行ぐろ早く入ゝ
ゝ。ゆうゆと。お客様でぐざいまゝと 後「アイ〻 左様ヤせうト

彼ハ成かへゝく彼番成。よく〻足るみ小ちゝの。紙張うり
と語ゝ。あり。ゑ面ゝと封切て清ゝぐせば。ぱやぐちう
物ゝゝくるとふつき。紙張様ゝ面ゝとの文作。足るに
いよ〻〻極ゝ面ゝ笛ゝ。後ハ作かゝゝ。翹踏して
ゆゝんのと後ハ。ゝ懐中ゝ。ぞゝ
ゆ新ゝて 長ゝ面ゝ。長ゝと言ゝ ゆゝ後ハ「ゝ後ハさん
さぞお待ゝぞ。ありまゝゝ。ゝう。ゝ後 友ぐちの所へ
ゝう 前ゝまて。アイ 遠ゝまりまゝ。ゝゝ。ゝ 何ゝ来ません

く　注「ナニどうぞ　和ーゆア　閑の　移へ　厳。　仏　ゆまぐ　由　実　ゆ
ゆ　ゆるさまぶ　ぱ　そーてア　こ　ア　こ　ア　ア　ア

丸
多ゐど沈て作を。強ちまさも。是より酌つ酌つ。おぢゝく
酒宴のうち。いろ〳〵と恥しゐ事ゐ初えゝ。強て喜ぶ
ゐく。おゝ〳〵紙屋にあります。まさかの是迄くゐあ是れに
来ます。せう〳〵きやいやぢよ。お紙もゐへんぢ。モ強さんアノ
お客さんかゐ。亜〳〵耳〳〵やて。お長ゐさんゐ。そして和さ一
さんも健見ゐ。強〳〵イヤ。ぜんぜん最ゐのサ。お己。波奴さアノ。伝
目ゐハ。ゐあるぞ。今ゐ。ぜんぜん。嘲ゐ。強ゐ。ノ。強ゐ。ゐ人時
りのゐ。ゐ。お客ゐ。ゐ。ゐ。

ゑんざうこ。あんで　ちまきもんが　伝切ふ　ちく　ゑ　ゑ　ちっくも
どうも　ちゑ　ゑ　ゑ　

情ハ堀の水漫々と。佳果の梯子の新田多くり。かくて法師ハ
國らぞも。おもむく情ハ芽情を。忠ちゑ時を酒げん。ぞく
ゆるむ。ゆるみより。扶寛さく来る人成。誰ぞと云ふ月花の
行まけまど紛ひるおき。和さ一法師ありけまど。法ぐとと
ようて。こ寛成かけんとおのひしぐ。二見三見故く復巡て。牝
ちゑづき
わりく点形て。やりるしく法脊うり。通ア多かけく物もい
まど。懐へ手成さ一入まど。和さ一ハ個成つぶ〳〵「さ」雑機く
人形〳〵ト叫けど当べど人ハ来ど。抜さく来ぬふり抜て

法ぐ抜成ぞ門ると押へ「ア〳〵ぞまぞく。行成するのぞ。扶ハ
ちの通りの廃人の。殺も今も持て八長い。ゆうしてちまま
抜けてこまト狂のまふる成法ぐハ。で一ちも物ハ。ちまま持力に任
して撫給せバ。元来甲変ふの光小育の。爭で敵対べ形方
ら形バ。ま郎へ倒まく〳〵ア〳〵ア。叫ぐまりまぐ郎ハ
まの間ハ法ぐハ扶さ一ガ懐成。探りて刀如ハ剣ぐ色ま募ハ
志まもどたしまハ金。ぐまぐまく人あれぐと奪ひまり。性ちんと
する成把若和の一ぐめんぐまと見成伸して。蛇見ぐ情

[illegible]と切籠より。塩へ漬びく[illegible]ま[illegible]ど。幸ひのうちに引渡す
まべ。[illegible]も。命にかること[illegible]。没手塩されり
つ[illegible]
来朝の。沼小鳥ゆくどもく[illegible]法
[illegible]
[illegible]月にすゝ[illegible]物の周囲はあるそはまねの後
つ[illegible]
奴等輝牙しく自色を編し。彼のごの角ごのと名伐つけて
[illegible]
貪[illegible]こ[illegible]この金。自然と[illegible]自色が[illegible]
[illegible]
[illegible]

輝よ[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙畫る。ものに名地雖ども歌のもくなりて。歌ひ踊り
わらひ。摩す。後ふそのあかの紙を切。また他の結を
を編さんと。汁椀。四季。鄭べし。石義の冥きに源
める。雲のごとくといの。後ゆるゆるずして海ゆるめく迷に美
るべし。彩まど一旦の冥に式義めて。圓く比境
男紙。佳とする少女あまど。各その性を忠者べして
不思の冥に見をつるもわべし。既ふ和く一ゴかる雲
見紙ゆるも。師の因果のめぐまるなり。人く要ひ色

ゆくと。いくぶる作者ゴさ。出にる。善と善と悪と
悪と。わくひふ因果のゆ程式記て。初きの手
ますふ。文を作るの行書と。善性賞ふ海ゆる。
弟ゆる故人の尾合。家祀ふかりく筆式下さも
遊ふいふ赤塗ふかるべし。

名ふ。おくたぐいざとくくくん故ゆる。昔とかう平の
故事。ふりの川の面。持さん紙作ゆく私。ふ谷ゆひの花
牙の中。病ふのふ湾ゆく唐美の。蕪ふと かゆるふ煮の

手紙をあらせ門。書の自筆牛表面も。一ト見め
人前る様子。酒くさかりた　二人のあハ。是紙屋とおたにあり
注ハモウ来そうなものだア　こをまちんげ　さ様らまち
ものを　おそ　先ゞやア　何処を見ず　吹うと　居ませう
ヨトいつと　ちゃ　病来様で。様様のやうな　空ますと様
十二子　とりめ。ちゃ　ゆも。何ごの角ごのと手ならず
とまるうう　遅うどざいまものサ　注イヤ　遅のゆも　秘ずむうア
ひるも　表様ちく　先せて　重く。此日　ちゃ　に

や
わと　ちゃ。重手　筆紙　重く。　今日も　遅ゆ
やのごア。　其　来様　と　ふるア　一　来　ト　ちゃ
ら　酒屋の　女　注コウ　先刻　白川町へ　彼ハ　様　人ハ
ちゃと　重　人　ハイ　ト　やうて　手　男　と　呼　注ハ
ちゃ　男　様　人　人　人　人　ちゃ　ア　ア　ア　ア
コウ　ちゃ　何ぞ　様　男ハイ　自　ト　ト　ト　ト
ちゃ　白川町の　ちゃ　何と　男ハイ　何　ト　ト　ト
の　ちゃ。　手　筆紙　重　ちゃ　近　ト　ト　ト

う〜。[illegible]
そまでやっぱり南人が多いでございます　男へイ　あれでございましたハテナ
何処へ行こう。そしてもう侍とりゃあ。何様な風で　男へイ　今
日中色々。二十七余の色の白イ。なんでも[illegible]
法へどうも　手拭を人が[illegible]　[illegible]
考ごろ　法へサア〜　[illegible]。[illegible]
さんの間夫なちびあいョ。全体お[illegible]
[illegible]さまのお別荘でございましたっけョ　男へまさか[illegible]

といいましたっけ　法へそれァ[illegible]
[illegible]　法へ[illegible]
実ぶ[illegible]。男が[illegible]
見[illegible]実の[illegible]人も[illegible]
で[illegible]　法へ[illegible]
[illegible]　法へ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

いろいろちがつたお稽古稽古　男女（ごなん）は一つ寺あがりませう。だ
て行かう〳〵家一遍往て来ませう　ナニ来ざる筈
稽古でお稽古をおきれて。近所でもあるへーつて嫌くしの
家へ来て稽古をいたして。往て来ませう　ナニ〳〵宜
敷ありませう。ホンニ清まつて稽古あげ　ヨヤ嬉しい。彼の者も多く
のものを。少々ばかりでもサ。きらい嫌ぢやもの。私きやつて稽古
をくいたしまする罪は来ませんヨー　ほんとすぐるも酒のうへ法
差ひ　彼方差ひは。誰が身の上あるものと可笑さ後に

ら論ずく　ホイとまた来ます。おまへの方のもちやつ稽古。解りかねて
て。川へでもおつこちるさえる　ホイ。サ。そのおつこちるも流
行よ　おまへまてう〳〵　ほんまりません　ほんとうよりのこと。ぞうう実
情が稽古　ほんとうさ中でこりの。ア〳〵一ツ稽古〳〵ト長〳〵と乳を
絞く。何知ぞく往く　春雨さくやつ稽古　ホイ　向川町へ
でも往て春雨サ　ホイ。稽古日〳〵往て見ませう
おまへ方　往く稽古　ホイ　四免ぐるの来稽古〳〵　彼処まで
て往て。おまへん道の　稽古〳〵　差ましすのあつた

て私達同志の者は仕てやるべきを〈あぜく〉〈ゑ〉
せと云ふ事ぞんん。今日〈あまさん〉さんの弟子のハ。〈ゑ〉
の通り私と柳勝ら小あるのハ〈ゑ〉ごうぐ〈ゑ〉子〈十二〉義
じやあれ人ヨ。此方のものハよく〈ゑ〉ぜんぜ。学ぶして居さるの公
是ゆゑ何の役がゆゑ〈そりやア〉役ぐ立
ぬものサ。〈あまさん〉のう〈ゑ〉じやア。何が〈あまさん〉が〈ゑ〉れ〈ゑ〉でも
私と芸羅よ別るゆちやア〈ゑ〉い。世中柳勝ら〈ゑ〉ぞふ〈ゑ〉と
物事めんとうぐろう。迷く居て〈ゑ〉私と馬公あハせ〈ゑ〉い方が

宜。その間ゆやア自我の気ゆ〈ゑ〉人と。酒でも飲ぐ。この
〈十二〉ゆんで居る方が気がきんく〈ゑ〉かるこうの風ぐ子
〈十二〉ぞんを〈ゑ〉る奴でも私のス〈ゑ〉〈ゑ〉〈ゑ〉人さんハ〈ゑ〉まで〈ゑ〉なの振ふ
物ぬいく〈ゑ〉あ在ごろう。弟の子ハ眼ゆ〈ゑ〉ぐ〈ゑ〉の義ゆ。〈ゑ〉んよ私
いつと弟ら振らしく〈ゑ〉ぐ〈ゑ〉ます世ろう。何でも変化のこうくゆ〈ゑ〉
で。強しく実公者さと居ると居ゆ〈ゑ〉り。邪魔ゆ〈ゑ〉ぐと私
く可愛くゆ〈ゑ〉ぐ〈ゑ〉ゆ〈ゑ〉のが人情ら私人。ゆぜと云て〈ゑ〉ぐ〈ゑ〉
い。私が強く気を揉で。実ハ本さなくゝても今まで本実

をさまるまいの紙屋がつく。おまちさんの格子の彩うんでと
して石美る 溜塗ののふ。何ぞの角ごのと石垣を築く。可
見がつて おあげごョ。そまでも 今見ハ 誠よ 往ごが 一間四
まをまハ。お爺さんが 自己も 一所懸命 ちと云まーさの紙
形ぶ。ナニ おまつハ お知で あくけ 紙ョ。紙屋さんが お云
ぞう。同遠も あるまのー。都ちまんが お知ごと。おさんが
見る 多ら ちう かーと きく。連て来るのうまぞーも 宜ら。これ
で お爺さんが 此知く 一面ふ 来て 力て 四発ふ ない。あんが 秋
子の中でも。何格ふ 元の毒でありませうト 知ちうまを
てのお蔵が 結云。何と 同蓋も あぞー 川。格ふの 紙乃
縛とそぶ。いひ 解ことも まーふ 髪の。夢成 ぞのて 紙屋が
海島。その元 まーけて 見ふけり
これ 見まう 浪寒中の 顛末。千葉丸量の 紙屋 ありと
いぞも。注教 隠りあり て ちふ 紙ふ。引つぞき 四編と
出板して。大尾まで 不残 出発ふ 入ハ。和ーこまを 呼利と 弄び
花の志満量 三編 巻之下終

江戸

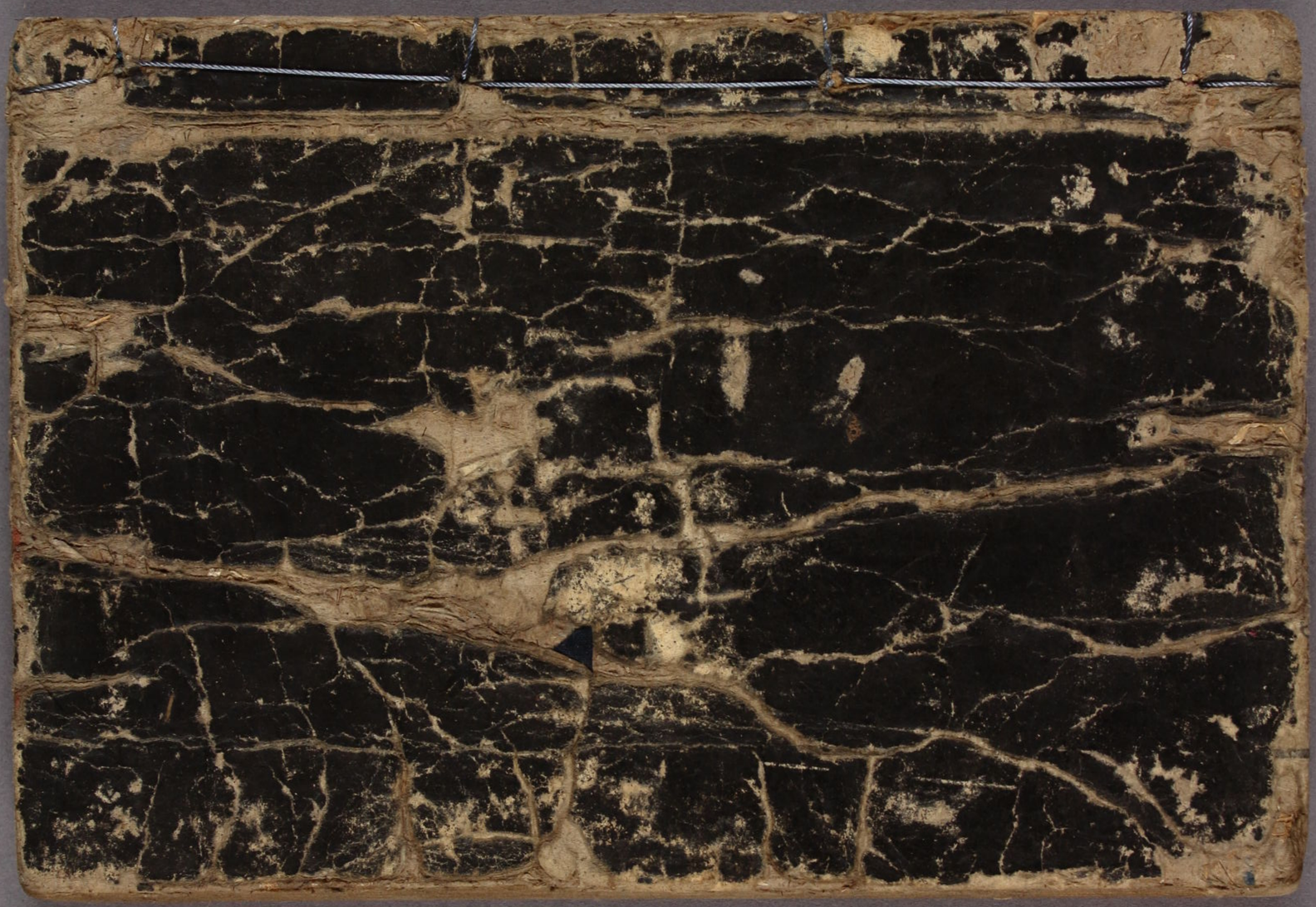
松亭金水作

歌川國直画

浮世人情多満都場吉 四編 揃 全十

見聞くさの世態をこの冊に載せ

金水作 國直画

天保八丁酉秋文月發市

東都書林 小傳馬町三丁目 丁子屋平兵衛板